

第2回 川上ダムモニタリング部会 議事要旨

1. 令和2年度モニタリング調査結果

- 植物の重要な種の保全については、移植が難しい種であれば、半数が消失したとしても、半数を残存出来たという評価でよい。
- 河川環境【付着藻類】の調査については、土砂還元等の効果が大きく現れる直下流を細かく実施することが望ましい。
- ダム下流におけるダム湛水後の底生動物相の変化をみるため、比奈知ダム等、他のダムの変化を参考にするとよい。

2. モニタリング調査計画

- 法面等の緑化の状況調査については、定期的にモニタリングを実施し特定外来生物の侵入状況を把握することが望ましい。
- 湛水直後から湛水後の水質状況把握のため、二股形状の貯水池であることを踏まえ、湛水域の前深瀬川と川上川に補助的に地点を設定して採水調査を行うことが望ましい。
- オオサンショウウオ調査について、モニタリング期間以降のモニタリング調査を検討する必要がある。

3. その他

- 土砂還元については早々に実施することが望ましい。
- 川上ダムを健全なダム湖として有効活用するために本質的な課題、例えば湖面（水鳥）環境、外来魚対策、人口動態、土地利用等について、のぞましい姿と、関係機関やダム管理者の関わり方を考えていく必要があり、引き続き検討する。

以上

※ 令和2年12月に開催を予定していた第2回川上ダムモニタリング部会については、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、対面での開催は中止とした。

本議事要旨は、各委員から個別に意見を頂き、第2回川上ダムモニタリング部会の指導・助言内容としてとりまとめ、12月24日までに委員の了承を得たものである。